

災害義援金を活用した支援策が決定

温かい善意を被災者に

6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震により、本市は死者1人を含む33人の死傷者、全・半壊3戸、一部損壊367戸など甚大な被害を受けました。この状況に、全国から義援金が寄せられ、岩手県からの配分金を含めると、その総額は3億円にも上っています。市はこの善意を、被災者の支援や復興などにより役立てるか検討を重ねてきましたが、このほどその支援策が決まりました。

義援金の総額は3億円余

これまで市に寄せられた災害義援金は、下表のとおり、岩手県からの配分金が2億4171万円、市が受け付けた義援金が5888万円、このほか被災者への支援を特定したふるさと応援寄付金が319万円で、合わせて3億378万円余りに上ります。

このうち、市に対する義援金は個人、団体を合わせて1137件を数え、ふるさと応援寄付金の中には、えさし藤原の郷で行われたNHK大河ドラマ「炎立つ」ロケ以降、本市をたびたび訪れている俳優の渡辺謙さんからの寄付も含まれています。全国の支援者から、心温まる善

意が寄せられていることを、あらためて市民の皆さんに報告します。

生活支援や復興にも活用

災害義援金を活用した支援策について、下表と併せて説明します。県から配分された義援金は、原則として被災者個人を対象とし、県が定めた配分単価に基づき、死亡した1人に500万円、長期入院を余儀なくされた最重傷者7人に250万円を配分します。住家被害については、全壊に500万円、半壊に350万円、一部損壊には損壊の割合に応じ、最高125万円から10万円までを配分します。次に、市が受け付けた義援金にふるさと応援寄付金を加えた

6207万円は、主に3つの施策に活用します。

第1は、被災者個人に配分します。人的被害者のうち、最重傷者7人に10万円、バスの転落事故などの軽傷者25人には独自に1万円の見舞金を支出。住家被害については、県の配分単価の10%を基準に、50万円から1万円までを配分します。

第2は、被災者の生活支援などに充てることにします。具体的な支援策のうち主なものを挙げると、①著しい被害を受けた菌床シイタケ・リンドウ栽培農家、養殖イワナ漁家への見舞金②仮設住宅の設置経費（設置は県だが、敷地の借り上げ料などは市負担）③長期避難者への見舞金④宅地危険度判定で危険度「大」「中」と判定された宅地の復旧工事に対する支援金――な

どに充てます。

第3は、復興対策として、風評被害対策キャラバン隊の経費に充てます。また奥州市の子どもたちを元気づけたいという全国の支援者からの申し出に、サッカークラブなどを市内小学校の全学級に配布します。

9月中をめどに個人配分

これらの被災者支援策は、8月21日の市議会地震被害調査特別委員会に報告、8月25日には市民代表を含めた11人で組織する市災害義援金配分委員会に諮って了承されました。市は現在、個人配分金の支払い手続きを進めており、9月中をめどに被災者個人に届く予定です。今後も義援金の受け付け状況をみながら、2次配分も検討していきます。

義援金配分の内訳

義援金配分の内訳

被災した個人に	2億960万円
人の被害（死亡1人、最重傷7人）に…2,250万円	
住家の被害（全半壊3戸、一部損壊367戸）に…1億8,710万円	
追加配分などに備えて留保する分	3,211万71円
被災した個人に	1,966万円
人の被害（最重傷7人、事故軽傷25人）に…95万円	
住家の被害（全半壊3戸、一部損壊367戸）に…1,871万円	
被災した人の生活支援などに	2,889万5,000円
農林水産物被害の見舞金に…696万9,000円	
避難者の生活支援に…290万8,000円	
仮設住宅の設置に…280万8,000円	
避難者などへの見舞金に…472万円	
仮設トイレなどの設置に…49万円	
危険宅地復旧工事費の支援に…1,100万円	
災害復興の支援に	188万6,000円
風評被害対策（市キャラバン隊事業）に…34万9,000円	
元気な子どもたち応援事業に…153万7,000円	
基金などに	1,163万3,684円
21年度以降の避難者の生活支援に…210万6,000円	
追加配分などに備えて留保する分…952万7,684円	

支出

支出



県からの配分

2億4,171万71円
岩手県から市に配分された災害義援金（日赤県支部、岩手日報社、NHK盛岡放送局、県共同募金会の受け付け分）
7月30日現在



市に寄せられた義援金など

6,207万4,684円
個人・団体から寄せられた災害義援金…5,888万4,684円（1,137件）
ふるさと応援寄付金…319万円（ふるさと納税制度による寄付金のうち、使い道が被災者支援と指定されていたものの10件）
8月12日現在

災害復興奥州キャラバン隊 相原市長を先頭に首都圏で市をPR



大きくアピールした横断幕（日本橋高島屋）

市とJAや商工団体を中心とした災害復興奥州キャラバン隊は8月20日、東京都内など4個所で観光や安全・安心な農畜産物などをPRしました。

地震による被害が着実に復興する中、新たに観光客の減少をはじめとした風評被害による地域経済への影響が心配されています。市はこの対策として、市内関係団体と連携したきめ細かな対応に努めており、今回のキャラバン隊もその一環です。

キャラバン隊は、市から向かった本隊18人に、市が委嘱している奥州大使や首都圏ふるさと団体会員らが都内で加わり、総勢50人規模。「へこたれませんか 奥州市」と書かれたTシャツを着用し、本市産ひとめぼれの小袋が入ったチラシを配りました。会場の1つである日本橋高島屋では時間前から行列ができ、用意された300袋が10分余りでなくなる盛況ぶりでした。



奥州大使の三遊亭楽麻呂さん（左）、桂丸さんの話で周囲には人垣（JR池袋駅）

【問い合わせ】
■義援金の活用について＝本庁総務課（内線452）
■義援金の個人配分の手続きなどについて＝本庁福祉課（内線226）